

サステナな歓幸地の創造へ

～ GX・DX・HX を基幹とした「まちのこし」への挑戦～

NPO法人 土湯温泉観光協会 会長
株式会社 元気アップつちゆ 代表取締役CEO
加藤 貴之



加藤 貴之

Kato Takayuki

profile

【ベース】

- 1976年 - S51 土湯温泉の老舗宿「木村屋旅館」に生まれる。
- 1995年 - H7 ホテルマン（東京）
- 1997年 - H9 ケアワーカー（神奈川）
- 2002年 - H14 社会福祉法人 多宝会に就職（帰郷 - 事業承継）
- 2017年 - H23 HEART計画株式会社 創業

【本業】

- ・社会福祉法人 多宝会 理事長（介護施設-市内4か所）
- ・HEART計画 株式会社 代表取締役（御とめ湯り-日帰り温泉施設）

【地域貢献】

- ・NPO法人 土湯温泉観光協会 会長
- ・株式会社 元気アップつちゆ 代表取締役CEO
- ・その他 関連企業・団体 役員

【趣味】

- ・料理／食べ呑み歩き／旅行

土湯温泉について



- ◎ 開湯1,000年余の歴史を有し**磐梯朝日国立公園（吾妻連峰）**の懷に抱かれた自然豊かな箱庭である。
- ◎ 温泉街の中心部には、国交省より**水質が最も良好な河川**の認定を受けている**荒川**が流れている。
- ◎ 古より「**土湯十楽**」と謳われるほど多彩な泉質の温泉が湧出し、温泉街や一般家庭の湯船を満たしており、その**温泉熱**も様々な事業に活用されている。
- ◎ その雄大な自然環境と温泉の泉質が評価され、H11年に環境省より**国民保養温泉地**に指定された。
- ◎ 鳴子温泉、遠刈田温泉とともに**東北3大こけし発祥地**としても名高く、伝統工芸品である**土湯こけし**が有名。

土湯温泉の組織と構造

【主要3団体】

NPO法人 土湯温泉観光協会	1966年 (S41)
湯遊つちゆ温泉協同組合	1997年 (H9) 3月
株式会社 元気アップつちゆ	2012年 (H24) 10月

出資：湯遊つちゆ温泉協同組合 18,000千円 (90%) / NPO法人土湯温泉観光協会 2,000千円 (10%)

【住民組織】

土湯温泉町地区自治振興協議会
土湯温泉町地区町内会連合会 etc

【基本情報】 ※ 2026.3.31現在

世帯数170：人口 約265人 (男性117 女性148)
高齢化率 約52.1% (65歳以上138人)





2011年～2019年

東日本大震災と原発事故への応戦

未曾有の応戦（震災・原発編）

2011年3月11日「東日本大震災と原発事故」発災

温泉街の宿 16軒中 5軒（約1/3）が廃業を余儀なくされ2つの復興再生機関を設立。



2011年10月 **土湯温泉復興再生協議会** 設立

後の産学官連携による「土湯温泉町地区まちづくり協議会」に発展。国交省の「都市再生整備計画事業」を柱に、5年の事業期間で廃旅館や廃屋の物理的な復旧・復興事業を担う。

2012年10月 **株式会社 元気アップつちゆ** 設立

温泉組合90%（18,000千円）・観光協会10%（2,000千円）の出資により温泉と河川（砂防堰堤）という地域ならではのエネルギー資源に着目し、FIT（固定価格買取制度）を活用した収益を「地域福祉」と「観光振興」に還元することで持続可能な循環型地域を目指すことで新たな価値創造事業を担う。

土湯温泉町地区まちづくり協議会（旧復興再生協）による 都市再生整備計画事業を活用した実績

公衆浴場 中之湯



（旧公衆浴場と廃旅館を一体再生）
全国的にも珍しい貸切浴室を主とした自噴泉を活用した公衆浴場として整備。一般浴室は温泉プログラム型健康増進を意識した設計。

まちおこしセンター
湯楽座（ゆらくざ）



（廃旅館を再生）
観光案内所・地場産品販売コーナー
レストラン・ギャラリー
地域交流室・会議室
研修室・研修宿泊室 etc

観光交流センター
湯愛舞台（ゆめぶたい）



（廃旅館を再生）
大駐車場・観光インフォメーション
こけし展示制作体験コーナー
コンベンションスペース
展望広場 etc

株式会社 元気アップつちゆ による 既存資源を活用した価値創造事業による実績

温泉バイナリー発電所



源泉を活用した地熱発電の一種。
「稼ぐ地域」と「インフラ観光」という2つの新たな価値を展開するためのキラークンテンツとして整備。

東烏川 小水力発電所



国交省の直轄砂防地域に認定されており、100年余の歴史を有し、国の指定重要文化財にも指定されている土湯温泉の「砂防堰堤」を活用。

エビ養殖場



温泉バイナリー発電所から排出される廃湯を活用し、新たな観光アクティビティを生み出すため、東南アジア原産のオニテナガエビを養殖。

なぜ、土湯温泉は再エネに取り組んだのか？

1. 震災を機に、これまでの観光資源だけで果たして将来はあるのか？

※ 3日間の停電と原発事故による脱原発が「エネルギー」への意識をパラダイムシフト。

2. 土湯には再エネに活かせる固有の資源（豊かな源泉と河川）がある。

※ 元より温泉熱はロードヒーティング融雪や暖房設備等で活用していた。河川も大正時代に水力発電会社が存在していた。

3. 有効な事前調査と有利な補助金の活用。

※ 2010年「小水力可能性調査-国交省」／2011年「再エネ事業の緊急検討委託業務-環境省」／2012年「FIT制度-経産省」

4. 復興再生と地域創生の先駆的かつ世界的なモデル地域となれる。

5. 疲弊した地域に夢と希望が生まれる。



地熱バイナリー発電事業

- 竣工 2015 (H27) 年11月
- 発電出力 : 440kW (最大)
- 媒体 : ノルマンペンタン
- 熱資源 : 温度 : 130°C 流量 : 37.2t/h
- 冷却水 : 260t/時 (約10°Cの湧水を利用)
- 年間可能発電電力量 : 2,600,000Kw/年
(一般世帯約800世帯相当)
- 電力 : 全量売電
- 売電単価 : 固定価格買取40円/kW (15年間)
- 売電収入 : 約100,000千円/年
- 総事業費 : 約700,000千円
- 事業資金 : 全額融資 (補助金10%)



東鴉川小水力発電事業

- ・ 竣工：2015（H27）年4月
- ・ 出力：140 kW
- ・ 最大使用水量：0.45m³/s（毎秒お風呂2杯分/約400ℓ）
- ・ 有効落差：44.18 EL.m
- ・ 計画発電量：年間約800.000 kWh

（一般家庭約250世帯分）

- ・ 電力：全量売電
- ・ 売電単価：固定価格買取 34円/kWh（20年間）
- ・ 売電収入：約19.000千円/年
- ・ 総事業費：320.000千円
- ・ 事業資金：全額融資（補助金100.000千円）



東鴉川第3砂防堰堤 昭和29年竣工



オニテナガエビ養殖事業

- ・竣工：平成29年5月
- ・全体事業費：132.700千円（補助金 81.540千円）
- ・養殖方式：ふ化から養育まで手掛ける陸上完全養殖
- ・養殖施設：敷地 200m² プレハブハウス3棟
水槽 10t 2基 5t 2基 4t 5基
展示水槽 250L 1基 計10基 50t
- ・使用水量：約300 L/h 流れ込み方式
水温 26～27℃
使用水 バイナリー発電所から送られる21℃の冷却水を
65℃の温泉と熱交換し適温にして供給
- ・飼料：養殖用配合飼料
- ・薬物使用：なし



売電収入の使い道（全額地域還元し循環型社会を形成）

1. 高齢者のバス代や学生の定期代を全額補助
2. 観光地にとってダメージの大きい空家対策と共に賑わい拠点整備を名産ブランディングを展開
3. 視察誘致や関係人口拡大、雇用創出による地域活性化（交流・移住・定住）
4. 磐梯朝日国立公園の環境保全と2050年カーボンニュートラルへの貢献
5. その他



R1商店街活性化補助金



R1商店街活性化補助金



2020年～未来

サステな歓幸地の創造事業

世界基準のサステナブルな「歓幸地」創造への挑戦！

ゼロカーボンパーク

「ゼロカーボンパーク」とは、国立公園内におけるEV等の活用や各種施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進めることで、国立公園の脱炭素化を目指すとともに、脱プラスチックも含めてサステナブルな観光地づくりを実現していくエリアです。また、国立公園をカーボンニュートラルのショーケースとし、訪れる国内外の人たちに脱炭素型の持続可能なライフスタイルを体験して頂く場作りも目指します。

これからの観光地は「楽しかった」だけでなく、
楽しい旅行や宿泊そのものが、人と環境に歓びを与え、
幸せにすることができる「歓幸地」としての使命がある！

2023年8月 東北初・全国12番目の認定登録！

世界基準のサステナブルな「歓幸地」創造への挑戦！

ゼロカーボンパークの具体的な活動

- ① 再エネ・省エネ設備の導入
- ② 温泉熱の再利用
- ③ 自然環境の維持保存
- ④ モビリティによるCO₂排出削減
- ⑤ プラゴミ削減（アメニティ・マイバッグetc）
- ⑥ DXの推進と自然との共生によるワークスタイルの提案
- ⑦ 新・湯治の推進
- ⑧ ゼロカーボンの普及啓発



限界集落に持続可能な温泉観光地を創造する具体的な「まちのこし」戦略

土湯アクション20-25

ARAFUDO of Business Influencers

「土湯アクション20-25」は、2020年から6ヶ年にわたる土湯温泉観光地域づくり戦略に取り組む「中期計画」の総称。

サブタイトルである「アラフド・オブ・ビジネスインフルエンサー」とは「"よそ者"こそ新たな道を切り開く存在」という意味。

土湯温泉とは無関係だった多様なフィールドで活躍する、あらゆる分野のあらゆる企業・団体・個人とペアリングし、インバウンドも含めた誘客宣伝や高度なマーケティング、多様なサービス、おもてなしのクオリティー等に革新を与え、土湯温泉でしか味わえない魅力的なコンテンツを生み出し「オープン・プラットフォーム観光地」の確立を目指す。

ビジネス・インフルエンサーリスト

2025.6.1 現在

- 東京都 株式会社よしもとエリアアクション
- 福島市 CHANNEL SQUARE
- 東京都 NPO法人銀座ミツバチプロジェクト
- 福島市 福島学院大学
- 東京都 踊る銭湯プロジェクト
- 福島市 Food Producer 川村慶輔
- 福島市 株式会社オーダーメイドジャパン
- 福島市 NTT東日本福島支店
- 福島市 一般社団法人手づくりマルシェ
- 西会津町 合同会社 MENDI
- 東京都 合同会社 CICLO
- 福島市 NPO法人フクシマガイフターズ
- 東京都 地域ブランディング研究所
- 東京都 目白大学短期大学部
- 福島市 福島大学 食農学類



BI 4組・AMB 1名からスタートしたプレスリリース時の模様

※ BI=ビジネス・インフルエンサー

※ AMB=観光アンバサダー： 藤原カズヒロ（株式会社フジワラプレス）
大橋直孝（NTT東日本）
ぺんぎんナッツ（吉本興業）
福島もも娘（台湾の福島応援アイドル）

国民保養温泉地にふさわしい発酵料理をメインとした「温泉メシ」をブランディング！

いい醸つちゆ！

iikamotsuchiyo!

土湯温泉の湯は、古よりこの地を訪れる人々の心身に「健康」をもたらし続けて来た。主泉である単純温泉の主な効能は「美肌」であり、赤ちゃんからお年寄りまで、すべての人々を優しく包み込む泉質として親しまれており、1999（H5）年4月には環境省より「国民保養温泉地」に指定されている。

このように、土湯の温泉そのものが「外から」美容と健康をもたらすのであれば、土湯が提供する「食」にもこだわりをもって「内から」の美容と健康を追求しようと、キーワードを「発酵」と定め、新たな食文化を生み出すプロジェクトをはじめた。

そんな「温泉×発酵」の力で「美容×健康」の新たな“温泉メシ”を創出するブランディング・プロジェクトの総称を「いい醸つちゆ！」と呼ぶ。



売電収入活用の発酵する温泉メシ

おららのどぶろく

土湯温泉の提案により、福島市が構造改革特別区域法に基づき、平成30年8月8日付けで国から構造改革特別区域に認定され、特区の名称を「福島フルーツ盆地酒（ぽんちしゅ）特区」とした。

- ・ 自社生産の県酒造好適米「夢の香」を使用。
- ・ 4,200㎡（4反歩）約1,000坪（年間900kg収穫）
- ・ 田植え5月・稲刈り収穫10月
- ・ 2023年1月13日「第16回全国どぶろく研究大会in北秋田」入賞（計82銘柄出品）
- ・ 経産省の「商店街活性化補助金」を活用。



温泉熱活用の発酵する温泉メシ

おららの温泉納豆

総務省家計調査による「納豆消費量日本一の福島市」を牽引し、温泉熱を活用したサステナブルな「納豆ラボ」を設置。発酵食品の王様ともいわれるオリジナル納豆の製造販売を展開し、新たな産業とブランドの確立による観光振興を目指す。

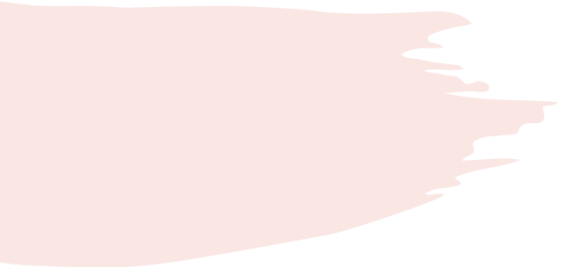
- ・ 福島県産丸大豆を使用。内池醸造とコラボの味噌だれを開発。
- ・ 福島大学食農学類ならびにNTT東日本福島支店と連携協定を締結。
- ・ 福島市資本としては唯一の納豆製造工場（ラボ）。
- ・ 発酵室には温泉熱を活用し、IT技術も駆使して温度を管理。
- ・ トレーラーハウスの活用により市街化調整区域の課題を解決。
- ・ 経産省の「事業再構築補助金」および福島市の「三名湯ブランディング補助金」を活用。



年間入込数の推移

算出拠点	KPI	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2025 KPI達成率
宿泊者	150,000人	84,178人	120,967人	130,026人	139,772人	183,200人	122%
日帰者	100,000人	87,386人	107,853人	122,219人	120,006人	110,827人	111%
道の駅つちゆ	150,000人	120,393人	151,955人	158,395人	163,113人	158,927人	106%
中之湯 2018	50,000人	42,241人	48,095人	54,797人	60,569人	67,068人	134%
湯楽座 2019	100,000人	93,314人	98,038人	88,531人	83,657人	106,699人	107%
湯愛舞台 2019	40,000人	10,687人	13,588人	17,440人	18,786人	18,030人	45%
おらのコミセ 2020	4,500人	4,193人	3,489人	3,355人	3,140人	1,687人	37%
おらの酒BAR 2020	2,500人	人	2,273人	1,561人	1,596人	1,964人	79%
再エネ視察	2,000人	512人	1,575人	1,367人	484人	454人	23%
女沼アクティビティ	1,000人	537人	852人	422人	520人	535人	54%
合計	600,000人	443,441人	548,685人	578,113人	591,643人	649,391人	108%

KGI	500,000人
2025 (R7) 年度 KGI 達成率	130%



サステナな歓幸地！

土湯温泉